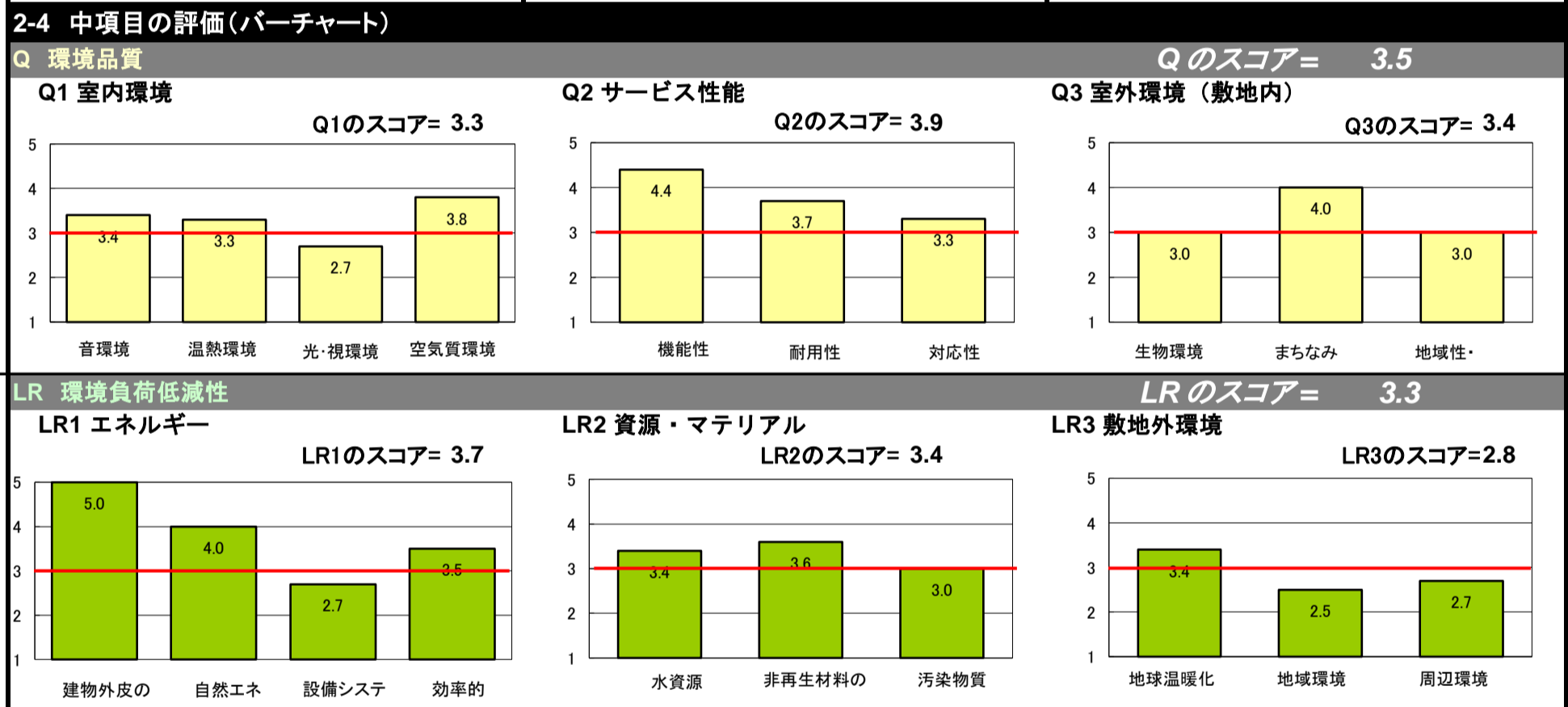
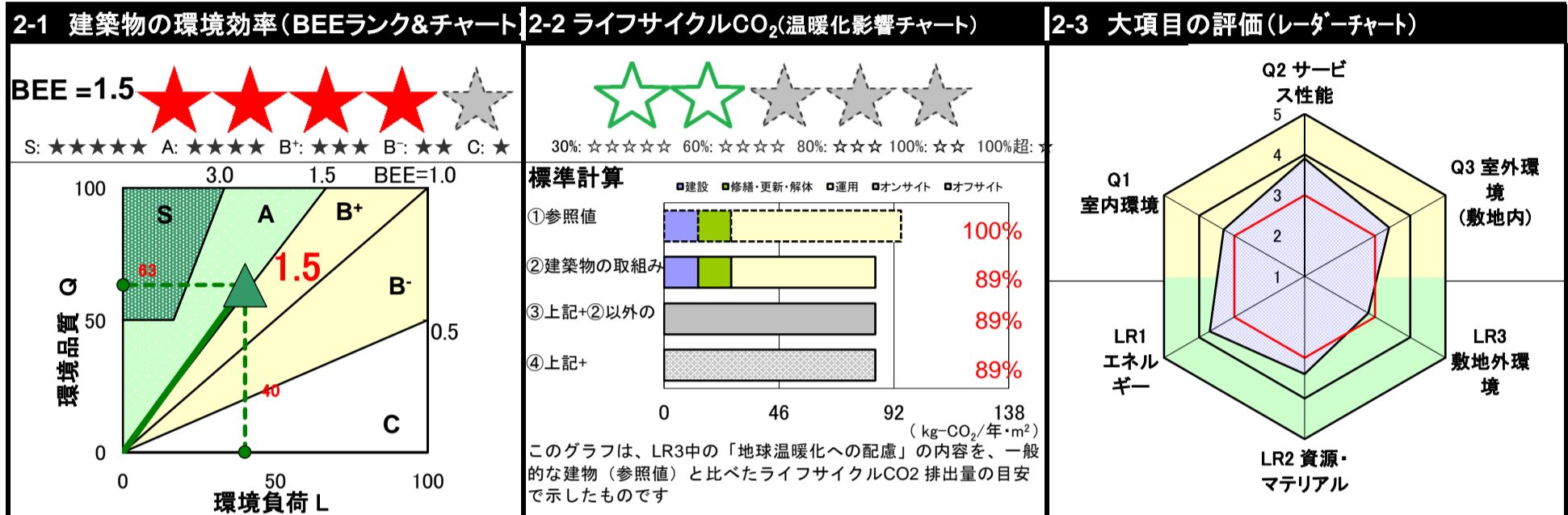


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知淑徳大学 長久手キャンパス 13号棟	階数	地上3階
建設地	愛知県長久手市片平二丁目1401~1409番	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	826 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年
建物用途	学校,病院,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年8月 予定	評価の実施日	2021年3月26日
敷地面積	5,697 m <sup>2</sup>	作成者	塩田 哲也
建築面積	3,981 m <sup>2</sup>	確認日	2021年3月26日
延床面積	10,147 m <sup>2</sup>	確認者	塩田 哲也



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p><b>3.4</b></p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p><b>3.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>48.0 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用</p> <p><b>3.5</b></p>	<p>④地域材の活用</p> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体								
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体								
<b>Q 建築物の環境品質</b>															<b>3.5</b>							
<b>Q1 室内環境</b>															<b>3.3</b>							
<b>1 音環境</b>															<b>3.4</b>							
1.1 室内騒音レベル															3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-
1.2 遮音															0.4	4.1	0.40	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能															-	5.0	0.39	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能															-	4.0	0.42	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)															-	3.0	0.10	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)															-	3.0	0.10	-	-	-	-	-
1.3 吸音															-	3.0	0.20	-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>															<b>3.3</b>							
2.1 室温制御															0.3	3.3	0.35	-	-	-	-	-
1 室温															0.5	3.6	0.50	-	-	-	-	-
2 外皮性能															3.0	3.0	0.48	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性															3.0	3.0	0.19	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御															3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2.3 空調方式															3.0	3.0	0.30	-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>															<b>2.7</b>							
3.1 昼光利用															0.3	3.0	0.30	-	-	-	-	-
1 昼光率															3.0	3.0	0.60	-	-	-	-	-
2 方位別開口															-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備															3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策															0.2	2.0	0.30	-	-	-	-	-
1 昼光制御															5.0	2.0	1.00	-	-	-	-	-
3.3 照度															3.0	3.0	0.15	-	-	-	-	-
3.4 照明制御															3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>															<b>3.8</b>							
4.1 発生源対策															0.2	3.8	0.25	3.0	3.0	1.00	-	-
1 化学汚染物質															0.5	4.0	0.50	-	-	-	-	-
4.2 換気															0.3	3.3	0.30	3.0	3.0	1.00	-	-
1 換気量															3.0	3.0	0.39	-	3.0	1.00	-	-
2 自然換気性能															3.0	3.0	0.21	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮															3.0	4.0	0.39	-	-	-	-	-
4.3 運用管理															0.2	4.3	0.20	-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視															3.0	3.0	0.32	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御															3.0	5.0	0.68	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>															<b>3.9</b>							
<b>1 機能性</b>															<b>4.4</b>							
1.1 機能性・使いやすさ															0.4	4.4	0.40	3.0	3.0	1.00	-	-
1 広さ・収納性															0.4	4.6	0.40	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応															3.0	1.0	0.05	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画															3.0	2.0	0.05	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性															0.3	3.7	0.30	3.0	3.0	1.00	-	-
1 広さ感・景観(天井高)															3.0	1.0	0.30	-	3.0	1.00	-	-
2 リフレッシュスペース															3.0	3.0	0.05	-	-	-	-	-
3 内装計画															3.0	5.0	0.65	-	-	-	-	-
1.3 維持管理															0.3	5.0	0.30	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計															3.0	5.0	0.50	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保															-	5.0	0.50	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>															<b>3.7</b>							
2.1 耐震・免震・制震・制振															0.3	3.7	0.31	-	-	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)															0.4	3.8	0.48	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能															3.0	4.0	0.80	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数															0.3	3.6	0.33	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数															-	4.0	0.23	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔															-	5.0	0.23	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔															-	3.0	0.09	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔															-	3.0	0.08	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔															-	3.0	0.15	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔															-	3.0	0.23	-	-	-	-	-
2.4 信頼性															0.1	3.6	0.19	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備															3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備															3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-
3 電気設備															3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法															3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備															3.0	4.0	0.20	-	-	-	-	-

3 対応性・更新性			0.2	3.3	0.29	3.0	3.0	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり			0.3	3.4	0.31	-	-	-	-
1	階高のゆとり		-	3.0	0.60	-	-	-	-
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	4.0	0.31	-	3.0	1.00	-
3.3 設備の更新性			0.3	2.8	0.38	-	-	-	-
1	空調配管の更新性	②	-	2.0	0.17	-	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	2.0	0.17	-	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	4.0	0.22	-	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.32	-	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	4.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.57	3.0	5.0	0.28	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			トップライトを使用している。	3.0	4.0	0.18	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.85	3.0	2.7	0.33	-	-	2.7
4 効率的運用			0.2	3.5	0.20	-	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			1.0	3.5	1.00	-	-	-	-
4.1	モニタリング		3.0	4.0	0.50	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.6	0.63	-	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	エコマーク:ビニル床タイル、特定調達品目:断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	3.0	4.0	0.20	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と仕上げ材が容易に分別可能となっている。	3.0	3.0	0.05	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	-
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.4	0.33	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮			0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	-
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	-
3	交通負荷抑制	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮			0.3	2.7	0.33	-	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	騒音	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	-
2	振動	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	-
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制			0.2	1.6	0.20	-	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	1.0	0.70	-	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.4</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.5</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:48%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	敷地外形に沿って細長い長方形ボリュームにすることで敷地を最大限に利用し、合理的な空間をつくった。勾配屋根を持つ低層建物として隣接する12号棟や周辺との調和を図り、大学コンセプトである質実剛健なデザインとした。外部に対して開口をできる限り絞ることで外部からの視線を遮り、日射遮蔽によって環境性能にも配慮している。
Q1 室内環境	全ての居室において騒音レベルは45dB以下となるよう設計している。遮音のグレードはすべてT2としており、外皮性能に関してはできる限り開口を絞ることで、日射遮蔽と断熱を行っている。内装材は全面的にF☆☆☆☆を採用している。また、基本的にキャンパス内は禁煙となっており、メインキャンパスに設けられた喫煙所のみ許可されているため非喫煙者への影響は全くないものとなっている。
Q2 サービス性能	多目的トイレだけでなく、各トイレに必ず1つ手摺を設置するなど、愛知県人にやさしい街づくり条例を満たしている。また、バリアフリー新法の建築物移動円滑化誘導基準の半数以上を満たしている。内装はパース作成を行い、照明について検討した。また、維持管理にも配慮した防汚性の高い仕上としている。
Q3 室外環境(敷地内)	まちなみや景観のため、隣接する住宅街を意識した勾配屋根を持った低層のボリュームである。長い外壁面が単調にならないよう、開口部の大きさを変化させている。一定間隔で設けられた吹き抜け部分を緑化し、内部・外部共に眺められるように計画されている。
LR1 エネルギー	北面の外部通路は建物側にトップライトを設け、自然光を使用した計画としている。また、細長い建物でありながら、吹き抜けを設けることで自然光を各教室内で取り入れやすくした。また、各種エネルギーの消費量を把握し、消費原単位を用いたベンチマーク比較が行える上に、電気・ガス・水の詳細な計量を行うことが可能であり、消費特性の傾向把握と分析を行うことも可能である。
LR2 資源・マテリアル	節水コマに加えて、省水型機器の取り付けを行うことで節水策を行っている。ビニル床タイル、断熱材のグラスウールには再生材利用の材料を使用している。
LR3 敷地外環境	敷地外への熱的な影響を配慮して屋根面や壁面を検討した。また、2階には診療所廃棄物庫を設置している。周辺近隣に対して夜間照明の眩しさを低減するために、窓面を壁面からセットバックし、彫りの深いファサードとした。また、開口を極力絞っている。
その他	なし。